

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2670300447
法人名	社会福祉法人 七野会
事業所名	グループホーム姉小路
所在地 (電話番号)	〒604-8263 京都市中京区堀川通姉小路下ル姉東堀川町76 (電話) 075-257-3867

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成22年2月14日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19	常勤	6人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	5階建ての	3階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60万 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.22 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井クリニック、上京病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生活支援総合センターとして地域ふれあいサロン、デイサービスセンター、高齢者賃貸住宅などを併設しているグループホームである。京都市内の旧住宅街にあり開設以来地域住民との交流や地域貢献に取り組んでおり、近くにある大きな商店街への毎日の買い物、地域行事への参加、センターの屋上での大文字鑑賞会に地域住民の来訪など、日常的に自然な交流が行われている。さらに、地域住民も視野に入れた備蓄準備や防災協定書の締結など、先進的な取組がみられる。家族の面会も多く、サービス担当者会議への参加も得られ、良好な関係が築かれている。法人全体として系統的な研修が実施されており、管理者初め職員は力をもっている。買い物や調理、後片付けまで利用者とともに行う毎日の食事、夜間も可能な入浴、付近の散歩、季節ごとの遠出、一泊旅行などの豊かな内容の外出など、グループホームとしての高いレベルのケアが実現している。ターミナルケアについては明文化された方針があり、利用者や家族の希望に添うように支援しており、実際に看取りをした経験もある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価による改善点としては、個人ケア手順書の充実、生活歴の更なる情報収集、献立の点検、アセスメントやケアプランの充実をはかるなど、改善に取り組んでおり、管理者、スタッフが一丸となって向上しようとする意気込みが感じられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価用紙を配布し、全項目に各自の思いを記入してもらい、それをもとにみんなで話し合っまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催し記録が残されている。会議での意見により非常時の備蓄品を入居者のみならず周辺住民の分まで準備したり、利用者、職員等の思いを表現した歌詞に職員が作曲した、「姉小路の歌」をコミュニティFMで放送してはとの意見により当センターの情報を発信したり、種々の取り組みに発展している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>行事の際には家族に案内し、参加された家族との懇談会を設け、職員、家族、利用者など意見交換の場としている。ホーム運営に関して、個別ケアをもっと充実してほしいとの意見があり、対応している。職員は利用者に関わる際に、本人の思い、求めていることなどを意識して把握し、理解できるように傾聴し、希望に添いたいと努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が安全、安心に暮らすには、地元の人達の理解や協力が欠かせないという思いから、1階サロンで地蔵盆やフリーマーケット、屋上での大文字鑑賞を通じて地域住民、子どもたちと交流している。近くの三条商店会には買い物、散歩、七夕夜市などに参加し、地域との関わりが保てるよう支援している。地域の中学校の総合学習を受け入れ、地域のボランティアの受け入れなど、開かれたホームづくりに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく生きる」を支援するという法人の理念をふまえて、職員全員で意見を出し合い、「自分らしくあり続ける暮らしを共に築く、共に食べ、働き、眠り、笑い、楽しみ、泣き、わかち合いながら……」というホームの理念を設けている。パンフレットに明記し、ホームページにも掲載している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の業務の中で理念に沿った援助がどうすればできるかを職員一人ひとりのケアをもとに、随時のやりとりやミーティング、ケアプランのモニタリング等の話し合いにおいて、理念に沿ったケアが実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が安全、安心に暮らすには、地元の人達の理解や協力が欠かせないという思いから、1階サロンで地藏盆やフリーマーケット、屋上での大文字鑑賞を通じて地域住民、子どもたちと交流している。近くの三条商店会には買い物、散歩、七夕夜市などに参加し、地域との関わりが保てるよう支援している。地域の中学校の総合学習を受け入れ、地域のボランティアの受け入れなど、開かれたホームづくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価用紙を配布し、全項目に各自の思いを記入してもらい、それをもとにみんなで話し合っまとめている。前回の評価による改善点としては、個人ケア手順書の充実、生活歴の更なる情報収集、献立の点検、アセスメントやケアプランの充実をはかるなど、改善に取り組んでおり、管理者、スタッフが丸となって向上しようとする意気込みが感じられる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催し記録が残されている。会議での意見により非常時の備蓄品を入居者のみならず周辺住民の分まで準備したり、利用者、職員等の思いを表現した歌詞に職員が作曲した、「姉小路の歌」をコミュニティFMで放送してはとの意見により当センターの情報発信したり、種々の取り組みに発展している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度は中京区役所の担当者が運営推進会議に参加しており、行政とは情報交換し、連携している。地域住民への介護相談は2階で対応しており、地域住民に対して認知症サポーター研修を実施し、事業所の地域貢献をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの近くに住んでいる家族の面会は頻繁にある。家族来訪時には利用者のふだんの様子がわかるように記録した「生活記録」「健康記録」などの個人記録をもとに近況を報告し、出納帳の確認も得ている。遠方の家族には、電話、手紙等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際には家族に案内し、参加された家族との懇談会を設け、職員、家族、利用者など意見交換の場としている。ホーム運営に関して、個別ケアをもっと充実してほしいとの意見があり、対応している。職員は利用者に関わる際に、本人の思い、求めていることなどを意識して把握し、理解できるように傾聴し、希望に添いたいと努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期的な人事異動は避けられず、今年度も管理者や職員の異動があり、利用者への影響を抑えるために、職員は一丸となって取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習教育部が勤務年数ごとに段階を踏んだ研修計画を作成し、実施している。外部研修は情報を提供し、職員からの積極的な受講希望を募り参加を支援している。法人内の3つのグループホームが定期的に交流研修をしている。資格取得には勉強会などの法人の支援がある。一人ひとりの職員の目標を年2回、管理者と話し合い、支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、京都府認知症グループホーム協議会に加盟し、交流研修に参加している。法人の新任3年目研修には他施設との交換研修が予定されており、職員自らが相手先の施設を選択し、交流研修している。こうして職員が他のグループホームから学んだことを生かし、運営、ケアに役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者には見学に来てもらい、時間をかけて相談にのり、丁寧に対応している。今まで通りの生活ペースを崩さないでホームでも生活できることを大切に、なじみの家具等を持ち込んでもらうように家族に説明している。利用当初の環境の変化に利用者が戸惑わないように、ホームに馴染むまで、職員ができる限り寄り添って支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は利用者がこれまでの生活を引き続き行うことを基本として、利用者の苦労話、生活歴、仕事の経歴などを傾聴し、ホームに馴染んでいただけるように職員との信頼関係づくりに努めている。利用者の表情をよく観察して、コミュニケーションをとるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を用いてアセスメントしている。利用が始まってからも職員は利用者から聞いたことを随時書きとめ、情報の補充に努めている。利用者が思っていること、願っていることを随時、職員が引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのサービス担当者会議に家族あるいは後見人が参加している。カンファレンスにおいては利用者個々のできること・できないこと・できそうなことを総合的に検討し、職員が現在の利用者の状況をまとめたケアプランの原案を提示し、カンファレンスで時間をかけて議論をし、最終のプランを決めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは原則として3ヶ月ごと、必要あれば随時、収集した情報、ケース検討会議の資料をもとに継続、中止、変更などの検討を行っている。計画に沿ったケアの実施状況及び結果、その後のモニタリングなども記録に残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域ふれあいサロン、デイサービスセンター、高齢者賃貸住宅などが併設されているので、利用者はふれあいサロンで地域の人と交流したり、以前にデイサービスを利用していた人はデイサービスを訪問したりしている。また賃貸住宅の住民がホームを訪問してきて交流したりという機会もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との間で24時間オンコールシステムをとり、利用者及び職員の安心となっている。入居前の主治医とも継続できるように配慮している。認知症専門医、認知症に理解のある訪問歯科医、開業歯科医とも連携し、受診時には家族が同行するが、状況によっては職員が同行することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化・看取りに関する対応に係る指針」に基づいて利用者や家族に説明し、意向を聴いている。ターミナルケアのマニュアルを作成し、職員研修を実施している。利用者と家族の希望により、最後まで看取った経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報が出漏れないように、記録の廃棄はシュレッダーを使用している。排泄、入浴ケアのときの声かけ、扉の開け閉めの対応など本人の思いを汲み、職員は細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が不安な表情を見せた時には、職員はそばに行き、声をかけて落ち着くまで一緒にいたり、ゆっくり話を聞くなどの支援をしている。散歩に行きたいなどの利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望により献立をたて、利用者と一緒に食材の買物に出かける。雨の日でも買い物に出かけることを利用者は楽しみにしている。近くの商店街で目で見て旬のものを買っている。店頭でのやりとりから、メニューが変わることもある。調理や後片付けも利用者と一緒にしている。職員も利用者と一緒に和やかに食事を楽しんでいる。食事介助も丁寧に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴を促すような雰囲気づくりに配慮し、気持ちよく自分から入っていただけるよう留意している。希望があれば夜間の入浴にも対応している。入浴介助は同性介助で行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好み、趣味、得意なことなどを把握し、利用者の気分や健康状態に合わせた楽しみ方への支援をしている。園芸や家事、配膳、食材の買い物 地域のお地藏さんの掃除当番や花生け、水交換など、楽しみながらの役割ができるように支援している。できる限り手伝わないで見守っている。利用者ができそうなことについてはその機会を提供し、働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの三条商店街やお地藏さんなどへは毎日のように散歩を兼ねてでかけている。屋上に菜園や庭があり、季節の野菜を育てている。利用者の希望により、墓参りや教会の礼拝参加などの個別外出にも取り組んでいる。季節毎の外出、一泊旅行も実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかかっている。職員が目配りで外に出て行く人の把握もできている。エレベーターの乗り降りも利用者は自由にでき、他の階へ行くこともできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域ぐるみで防災に関心が高く、地域住民とともに避難訓練を実施している。生活支援総合センター姉小路、町内会、消防署の三者で防災協定書を締結する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に指導を受け、糖尿病食やターミナル時の食事、きざみ、極小きざみ、すりつぶし食など利用者のそのときの状態に合わせて個別に対応し、水分摂取量についても記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活支援総合センターは鉄筋コンクリートのビルであるが、その入り口に暖簾をかけ、誰でも気軽に入る雰囲気を作っている。グループホームの床や壁は木製であり、落ち着いた感じにまとめられている。居間の外にあるベランダにはミニ菜園があり、廊下にオルガンやミンが置かれ、畳コーナーには雑誌や新聞などがあり、家庭的である。屋上では季節の果物や野菜を育て、芝生が張り巡らされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンスや机を持ち込んでいる。壁には自分や孫の写真、自分で描いた水彩画などを飾っている。機能訓練も兼ね、できる人は身の回りの掃除等も行っている。		